

北海道立市民活動促進センターは、地域社会のニーズに的確に応えようとするNPOなどの道内の市民活動を応援しているセンターです。

## 特集

## 雪国ならではのボランティア

私たちの住む北海道の冬は厳しく、1年の3分の1以上雪で覆われる地域もあります。雪国ならではのボランティア活動はいろいろありますが、今回は札幌で活動している「NPO法人 手と手」の取り組みを三田村 亜依さんからご紹介いただきます。

### 【NPO法人手と手 の事業】

私たちNPO法人手と手は、さまざまな形で障がいのある方への外出支援活動を行い、誰もが平等に参加できる社会を目指しています。

ボランティア事業では、キャンプや旅行などイベントを企画・実施したり、事務所を利用して交流会やカフェ、コンサートを開くなどして出掛ける場や機会の提供、およびボランティア派遣をして外出のサポートを行っています。研修事業では、各学校・企業・団体に職員を講師として派遣し、介助講習を行います。実際に車いすや白杖を用いて障がいの疑似体験を行うほか、障がい当事者の職員が出向き当事者目線の話をさせてもらうこともあります。

また、ヘルパーおよびガイドヘルパーを派遣する「在宅支援センターという」、障がいを持つ児童に学校以外で遊び学べる場を提供する「児童デイサービスセンターこのは」、障がいがある方に就労を通して社会参加を支援する「就労支援センターしずく」の3つの居宅介護事業を行っています。

### 【さっぽろ雪まつり「福祉ボランティアハウス」の運営】

団体の立ち上げ当時から20年間継続している活動として、さっぽろ雪まつりでの介助ボランティア活動があります。毎年、大通西6丁目会場に「福祉ボランティアハウス」を設置し、障がい者や高齢者など一人で雪まつりを見学することが困難な方々に、車いすや防寒具の貸し出し、介助ボランティアの派遣、手話通訳などのサポートをしています。

雪道を車いすで進むことは、とても困難です。

車いすの種類は様々ですので一概には言えませんが、たいていの場合、前輪が雪に埋まってしまう身動きがとれなくなってしまいます。札幌の中心部はロードヒーティングとなっている箇所もありますが、ロードヒーティングの部分とそうでない部分とで雪の段差ができてしまい、車いすで越えるのが一苦労だったりもします。雪道の状態も、凍ったツルツル路面からシャーベット状態まで日によって変わり、地元の私たちがさえ苦労するのですから、雪に馴染みのない道外の方たちにとってはもっと困ることでしょう。

雪道をスムーズに押すために、ハウスには雪道用の車いすも数台用意しています。これは車いすの前輪部分にミニスキーを取り付けたもので、スキー板の真ん中に穴があいており、そこから下に車輪が出ているので、雪道と雪のない所両方で乗ることができて便利です。また、車いすユーザーのために手と手で考案・開発した「ぬくぬく」という防寒具は、寝袋のように足全体を包むことができるのでとても温かく、着脱も簡単にできるようになど細部まで工夫を施しています。



雪道用の「スキーキャスター」と体をすっぽり覆える「ぬくぬく」



「スキーキャスター」のアップ

## 雪国ならではのボランティア

### 【利用について】

例年、述べ人数で300名ほどの方に利用していただいています。近年は道外から旅行で来られる方が半数近くを占め、また毎年利用して下さるリピーターさんもいます。雪まつりは世界中から人が訪れるので、ときには外国人の方が利用されることもあります。障がいをお持ちの方は車いすユーザーばかりではありません。聴覚・視覚障がいの方や、普段は一人で歩行できるが雪道だと介助が必要になる方など、サポートの内容はそれぞれです。

私たちにとっては倦厭してしまう吹雪も、旅行者の方からは「感動した!」という声が届きます。吹雪の中、会場を見て回り、体中に雪をつけて帰って来る利用者さんの笑顔を見ていると、こちらまでなんだか嬉しくなります。また、ボランティアハウスに来て、ボランティアさんに会うことが目的という方もいます。特に施設入居者など普段なかなか自由に外出することができない方にとっては、ボランティアとの交流が大切な出会いの一つなのです。

### 【ボランティアについて】

ボランティア数は例年150名ほどで、高校生から70歳近い方まで男女問わず、さまざまな方に参加していただいています。基本的に一人の利用者に対し3人1組のチームで活動してもらい、また初めてのボランティアには必ず事前研修を受けてもらうため、未経験の方でも安心して参加できます。研修会では介助方法の講習のほか、実際に雪道の上で車いすに乗って、利用者側の体験もしてもらいます。

先ほどサポートの内容はそれぞれと言いましたが、共通していることもあります。それは“一緒に楽しんでもらう”こと。介助をしながら、自分

たちも楽しむことを心掛けています。介助がメインのボランティアですが、ただ介助するだけではとても味



研修会での介助実習

気ないものになってしまいます。利用者さんに「来てよかった」あるいは「また来たい」と思ってもらえるように、たくさん会話などをして交流してほしいと思っています。またそうすることで、新しく学べることがあったり、今まで自分が気づかなかったことに気づけたりと、ボランティア側も得られるものがあるといえます。

### 【活動の意義とこれから】

ボランティアは決して「してあげる」ばかりではありません。自分が与えてもらえることもたくさんあるのです。そして利用者の側もまた「してもらおう」だけではありません。積極的に外へ出て行くことで、障がいへの理解や社会のバリアフリー化へとつながっていきます。



利用すること・ボランティアすることで変わる社会

ヘルパー制度が進んだことにより、市内在住者の方にはボランティアの必要性があまりなくなってきました。現在は主に、地方から旅行で来られる方やデイサービス等施設利用者の方々に必要とされています。障がいのある方にとって、参加困難度の高いさっぽろ雪まつりにチャレンジしたことは、本人にとって大きな自信となるはずですが、多くの方に支えていただきながら、今後もこの活動を継続していきたいと考えています。

### NPO法人 手と手

〒062-0907 札幌市豊平区豊平7条8丁目1-15  
TEL:011-818-0801  
FAX:011-818-0803  
E-mail:tetote@gamma.ocn.ne.jp  
HP:http://www9.ocn.ne.jp/tetote/

# センターインフォメーション

## 当センターで開催した講座等を一部紹介します。

### 「市民活動団体スタッフ養成講座」

～NPO・NGOスタッフトレーニング2009～

10月17日(土) 18日(日) 24日(土) 31日(土) 11月1日(日)の5日間(合計30時間)、NPO・NGOの活動に関わっている、もしくは関わろうとしている市民の方々を対象に、各々が市民活動についての知識や実践的技能を身につけ、新たな社会づくりに活かしていくための研修講座を開催しました。

合意形成のシュミレーション、市民活動の基礎、会議をスムーズに進める手法、活動のPR、市民調査の手法と車椅子を使ったフィールド調査、ボランティアの実践事例など、それぞれの実践者や専門家から学びました。

参加者からは「NPOについて漠然と考えていた数々の疑問点が少し解決したように思います」、「人と良好な係わりを持つことで、いろんなアイデアがあることと、多くのアイデアが生まれてくることのおもしろさを実感できました」、「ワークショップが多くてグループ討議の機会がいろんな形であって良かった」などの感想がありました。



### 「市民活動協働開催講座」

～大和田流市町村財政分析ワークショップ～

9月26日(土)「さっぽろの「おサイフ」を知る会」と共催で、講師にNPO法人多摩住民自治研究所理事長大和田一紘さんをお招きして、自治体の「決算カード」から財政傾向を検証するため独自に創り上げた「大和田式財政分析法」(決算カードの数字を分析用紙に転記する分析方法)や財政用語などについて学びました。

参加者からは「お金の出し入れから行政を見る、という視点が自分には今まであまりなかったので大変面白かった」、「これから国、地方の借金、自治体の財政はどうなるのか、更に深めたい」などの感想がありました。

### 「市民活動スキルアップ講座」

～市民活動団体が経済的に

自立できる事業とは～

12月8日(火)講師にIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表の川北秀人さんをお招きして、市民活動が経済的に自立し、継続する可能性を高めるためには、事業のどのような工夫や仕組みづくりが必要なのか、について学ぶ講座を開催しました。

参加者からは、「もう少しNPOと言うものを理解しておきたい」、「聞く度に新しい発見や事例があったので参考になりました」などの感想がありました。



# センターインフォメーション

受講者  
募集中

## 当センターで開催する事業のお知らせ

### 市民活動協働開催講座

#### 「再発見、北海道～

#### 「国境や文化の違いを越えて」

北海道の在住外国人の数は、この十年間少しずつ増加し続け、2万人を超えています。また近年、「多文化共生」という言葉を目にする機会が増えています。しかし、道内の多くの人にとって、在住外国人の方たちと交流する機会はまだまだ限られています。そこで今回、在住外国人の方たちをお招きし、お話を聞く機会を設けました。

日 時：平成22年2月28日(日) 13:30～16:30

場 所：北海道立市民活動促進センター研修コーナー

対象者：一般市民等

内 容：第1部

講演：「なぜ私は北海道で暮らすことにしたか」

講師：レイモンド・エップさん

(メノビレッジ長沼代表)

第2部

テーマ「私と北海道」

4名の外国人ゲストからお話をお聞きます。

参加料：500円

定 員：25名(先着順)

共 催：NPO法人 さっぽろ自由学校「遊」

### 市民活動スキルアップ講座

#### 「NPO 法人決算相談会」

市民活動団体の会計・税務の悩みに、税理士がお答えする無料相談会を開催します。

「会計の処理の仕方」、「決算や収支決算書の作成」、「法人税、源泉税、消費税の処理や手続き」など、会計や税務の疑問や悩みについて個別に対応します。お気軽にお申込み下さい。

日 時：平成22年2月26日(金) 10:00～15:50

相談時間は次の時間帯で1団体50分です。

10:00～10:50(2団体)

11:00～11:50(2団体)

13:00～13:50(2団体)

14:00～14:50(2団体)

15:00～15:50(2団体)

場 所：北海道立市民活動促進センター研修コーナー

対象者：NPO法人、市民活動団体の会計担当者等

税理士：佐藤はるみさん

瀧谷和隆さん

参加料：無料

定 員：10団体(先着順)

各講座の概要や申込等、詳しくは当センターホームページをご参照下さい。

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>

### NPO実務講座

#### 「基礎・組織運営編 / 法人設立手続編」

この講座は、市民活動を展開していくための基本的な知識や手法について学ぶ「基礎・組織運営編」とNPO法人設立に必要な手続きや書類作成に関する知識の習得を図る「法人設立手続編」とがあります。

日 時：平成22年2月21日(日)

「基礎・組織運営編」13:00～14:45

「法人設立手続編」15:00～16:30

3月にも同講座を開催します。

場 所：北海道立市民活動促進センター研修コーナー

対象者：市民活動に関心のある方、すでに活動している方など

内 容：「基礎・組織運営編」

講師：東田 秀美さん

(NPO法人旧小熊邸倶楽部理事長、

市民活動スペース アウ・クル代表)

講義：「NPOとNPO法人の基礎知識

(メリット・デメリット他)」

「組織づくりの入門編」など

「法人設立手続編」

講師：二瓶 志乃さん

(北海道環境生活部生活局

道民活動文化振興課協働推進グループ主査)

講義：「申請に必要な手続き」

「書類作成の留意事項」など

参加料：各編300円(資料代)

定 員：各編20名(先着順)

この講座は北海道教育委員会が主催する「道民カレッジ」の連携講座となっています。

## 当センターでは、市民活動に関する疑問・質問に相談員がお答えしています。

「NPOって何ですか?」、「ボランティア募集の情報を知りたい」、「助成金に関する情報を得るにはどうしたらいいの?」、「市民活動団体の運営についてアドバイスを受けたい」、「現在の活動団体をNPO法人化したい」など市民活動に関わる相談に相談員がお応えします。

直接来所、電話、FAX、メールなどで、お気軽にご相談下さい。

・TEL：011-261-4440

・FAX：011-251-6789

・E-mail：center@do-shiminkatsudo.jp

・URL：http://www.do-shiminkatsudo.jp

## 編集後記

「雪」に関連するボランティア活動として除雪や屋根の雪下ろしのボランティアなども各地で取り組まれていますね。今回の特集記事の「NPO法人手と手」さんには、間もなく2月に開催する「さっぽろ雪まつり」での介助ボランティア活動の準備でご多忙のなか、原稿執筆にご協力いただきました。本当にありがとうございました。(ヤ)